

# 湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学  
所 属 看護学科  
名 前 松永 雄至  
作成日 20230930

## 1. 教育の責任

私は、本学の教育活動に関して、次に述べる科目や教育活動の一部を担当している。まず、担当した科目は、小児看護方法論Ⅲ(必修、3年次生対象)、看護基盤実習Ⅰ(必修、1年次生対象)、実践看護論Ⅲ(小児看護の専門性、選択、4年次生対象)、小児看護学実習(必修、3年次生対象)、看護基盤実習Ⅱを今後担当する予定となっている。教育活動としては、看護学科内の実習委員会に参加し、インシデントレポートの教材化の検討に関する係、「臨地実習における看護スキルと卒業時の到達度」の Web を用いた活用方法の検討に関する係、実習中の感染対策「実習中の COVID19 感染対策マニュアル」のバージョンアップについて検討する係で活動している。また、2年次生のチューター教員として14名の学生を担当し、出席状況や学習状況を確認し、学生の抱える課題について、主に面談を通して関わっている。その他、今年度はチーム医療論(必修、4年次生対象)の事例 WG に参加し、今年度の事例について看護学科としての意見を述べ、事例作成に関わった。

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

看護師となるためには、多くの専門的な知識や技術を身に付け、様々な領域の実習を重ねなければならない。実習では、限られた時間の中で看護過程を展開する必要があり、課題として記録の作成が求められる。また実際の患者と関わる中で、基礎看護学で学んだ看護技術を含む看護を提供しなければならない。講義で得た知識や様々な理論を、実際の患者の姿を通して経験する中で、患者と一緒に看護目標を設定し、患者と一緒に実践しながら、患者の回復を共に喜び学生が看護を実践する楽しさ、面白さを感じられるように指導することを大切にしてきた。もちろん看護を実践する楽しさ、面白さだけではなく、実践した看護を振り返り、学生自身が新たな課題を設定し、学びが継続できることも大切にしている。

学生には、日々の学修に主体的に取り組み、実習では知識と技術を統合し、看護を柔軟な発想で実践することを期待している。

### 2) 理念をもつに至った背景

私の教育活動の原点は、臨床現場にある。臨床経験のほとんどは、集中治療室(以下、ICU とする)であり、そこで新人看護師のプリセプターとして 5 人、それ以外の教育を含めると多くの新人看護師教育に携わった。私自身、新卒で ICU に配属されたが、ICU で求められる知識や技術は不足し、予想以上の重責に押しつぶされそうになった。ようやく 1 人前に仕事ができるようになった 3 年目で新人看護師教育を初めて担当し、自分の未熟さを痛感した。プリセプターとして、それぞれの個性を把握し指導を行ったのだが、5 回も試行錯誤する機会を得られたことは貴重な経験であり、看護基礎教育課程において教育を行う道を志すきっかけとなった。

ICU における看護とは、重症者に対する濃厚な看護であり、疾患に対する理解、治療に対する理解、医療機器に対する理解、そして患者に対する理解など様々な知識を必要とし、結果とし

て緊張の連続であった。それでも多職種と共に医療、看護を提供できたことにやりがいを感じていた。辛く厳しい環境の中においても、楽しさ、面白さを感じられる看護師を育てたいと考えている。

### 3. 教育の方法・戦略

主に、担当している講義と実習に分けてまとめる。

#### 【講義】

私は、今年度の小児看護に関する講義として、「小児看護方法論Ⅲ」における「周手術期の子どもと家族の看護」「急性期の子どもと家族の看護」を担当した。一般的な周手術期や急性期の特徴、子どもにとっての周手術期、急性期の特徴、家族にとっての周手術期、急性期の特徴を順に説明した。続いて小児は成人に比べて急変のリスクが高いことから、急変リスクを正確に観察しアセスメントする技術として、バイタルサインの測定と全身状態の観察技術を内容として盛り込んだ。授業の工夫として、講義形式では教員から学生に対して一方向となりがちであり、90分間集中して講義を聴くことは難しい。そのため、ランダムに指名し、質問している。原則として、何らかの発言(回答)ことで、講義に参加し、自ら考える機会としている。また、臨床経験談や私の家族に関する経験談を講義内容に合わせて盛り込むことで、興味をもってもらえることを意図している。講義資料は、パワーポイントを用いているが、教科書では不足している内容は、他の書籍などから引用し、後から復習しやすいように配布資料にも写真や図を多くの載せるようにしている。

#### 【実習】

実習指導における指導教員としての役割は、実習要項にある目的・目標を達成できるように実習指導者と調整し、また受け持ち児と学生双方の安全を確保することが必要である。実習では受け持ち児・家族との関りから、受け持ち児への看護の実践、看護師をはじめとする専門職との関りなど講義演習では経験できない内容に加え、看護過程に沿った看護記録の記述が求められる。短期間の実習を有意義なものとするために、事前学習課題として受け持つ可能性の高い疾患、症状、治療について復習し、看護ケアを実践する際は、詳細な看護計画の立案が求められることから、見学で終わることがないように、一部介助でも、学生が指導教員や実習指導者と共に実践できる機会を得られるように、看護ケアの計画を考え、学生に指導し、また実習指導者と調整をしている。

### 4. 学習成果

#### 【講義】

1) 学生からのリアクションペーパーに寄せられたコメント (肯定的なコメント)

- ・教科書のページ数が示されていて有難い。
- ・配布資料が文章だけではなく、写真も多く添付されているのがわかりやすかった。
- ・アセスメント項目について、なぜ必要か(根拠)について考えたことで、今後より目的を持

った看護ができると感じた。 など

(要望としてのコメント)

- ・大切なところを穴埋め方式にしてくれると嬉しい。
- ・頻出している国試問題などを紹介してほしい。 など

2) 講義および、配布資料は肯定的なコメントが得られたが、国家試験対策としては教員側も学生側も意識するところであり、講義の中で取り上げていきたい。

#### 5. 改善のための努力

- ・今年度から担当した科目における講義であるため、まずはリアクションペーパーの内容を確認し、講義内容や配布資料の内容を検討する。
- ・授業評価アンケート結果を確認し、改善点を明らかにしたうえで、次年度以降の講義内容や配布資料を検討する。
- ・臨地実習においても、授業評価アンケートの結果から、講義や演習の中で改善すべき内容か、臨地での調整で改善すべき内容かを精査し、来年度以降の講義内容や実習施設との会議で検討していく。

#### 6. 今後の目標

##### 【短期目標】

今年度担当した講義内容や演習は、来年度には新カリキュラムに変更となるため、まずは今年度の評価を基に、今年度中には内容を検討したい。また、小児看護学実習は、病院と幼保一体型幼稚園で実習している。元々私は看護師として病院で勤務してきた経験や、過去に病院での実習指導をしてきた経験から病院実習の指導は手ごたえを感じているが、幼保一体型幼稚園での健康な児の成長発達をどのように学生に指導していくかについては、改善すべき内容を今年度中にまとめ、来年度に生かしていきたい。

##### 【長期目標】

今年度小児看護学の教員として着任し、1科目の一部の講義を担当している状況であるため、1科目を担当できる能力を身に付けたいと考えている。今後、小児看護学実習は、新カリキュラムではヘルスプロモーション実習となるため、子どもの成長発達を意識した幼稚園での実習となる。そのため、これまでの病院実習での学びに加え、健康な児の成長発達をどのように学生に指導していくかについて検討していきたい。

##### 【添付資料】

- 1, シラバス
- 2, 講義資料
- 3, リアクションペーパー